

車マニアではないのに、若いころには個性的な車が欲しかった。雑誌をあさり、目に留まった車種名が「シロッコ」だった。かわいい語感に反して意味は「熱風」▼福島あずさ著「世界の風」(創元社)に「春の訪れとともに、地中海沿岸で吹く温暖な南東風」とある。熱と暖では違う。気になった疑問は別ページで解けた▼アフリカの砂漠に吹く強風「レステ」は、北部のリビアへ「ギブリ」となって厄介な砂を降らせる。さらに地中海を渡って湿り、イタリアでシロッコになるわけだ▼よく走る車に合う名前かどうか。18世紀の旅行者の書簡に、こうあるそつだ。この風の吹く間、ナポリの人々は愛人と会う

### 越山若水

2018.2.20

情熱を失い、天才もつまらない作品しか作れない、と▼このようにある地域で毎年、同じ時期に吹くのを「局地風」という。このなかから気象用語に使われ耳になじんだのが「フエーン」や「ブリザード」「モンスーン」などである▼先日は北陸地方で春一番が吹いた。これも局地風。豪雪に難渋する最中だったので印象が薄いがい、いつもの年なら「春近し」を感じワクワクする▼きのうは二十四節気の「雨水」だった。降る雪が雨に変わるころ、の意味だ。目に見えるので、こちらの方が春を実感できる、とは言わないでください。局地風は時に被害もたらすが、その土地とは不可分。「風土」というのだから。